

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 25 日
② 法人・団体名	特定非営利活動法人シェイクハnz		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	484-0083 愛知県犬山市大字犬山字東古券 7 0 番地 2		
④責任者氏名	松本里美	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	松本里美	(役職名等)	

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R07-040	⑦助成金額	100 万円	⑧申請カテゴリー	DS
⑨奨学活動名	オークの仲間～希望が持てる中高生の学びの場づくり～				
⑩主な実施場所名・及びその住所	愛知県犬山市字裏之門 55-1 楽田児童センター2 階「寺子屋シェイクハnz」				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

地域に多い外国ルーツの生徒や発達に凸凹のある子、また、貧困を抱える中高生を中心に、毎週 2 回、学習支援や体験活動のできる居場所的な「場」をつくり、楽しみながらも、それぞれの進学
の場を目指した。

① 学習支援の場として、毎週水曜日 18 時～21 時。（7/30～3/21）土曜日 10 時 00～12 時。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑩及び様式 3-2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	858	5	4,290	13 人 x 2 回/週 x 33 週、延べ 858 人
高校生等	528	5	2,640	8 人 x 2 回/週 x 33 週、延べ 528 人
大学生等	198	3	594	3 人 x 2 回/週 x 33 週、延べ 198 人
学習支援員等	198	5	990	3 人 x 2 回/週 x 33 週、198 人
その他	66	5	330	1 人 x 2 回/週 x 33 週、66 人、見守りとして
合 計			8,844	66 回。延べ人数として

⑬その他の定量的な数値（任意）

中学 3 年生【5 人】、中学 2 年生【3 人】、中学 1 年生【5 人】

高校生 2 年生【1 人】、高校 1 年生【1 人】 高校生年代 16 才【2 人】、18 才【1 人】

【内、中退者 2 人】【不就学 1 人】

令和7年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：オークの仲間～希望が持てる中高生の学びの場づくり～

法人・団体名：特定非営利活動法人シェイクハンズ

作成者 氏名：松本里美

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

実施内容：外国ルーツや困難を抱える中・高生や高校中退者等に、学習支援・キャリア支援

又は、体験活動ができる居場所を毎週2回（水曜日放課後、土曜日午前）開設した。

※7～10月は、土曜日は犬山市東古券の団体事務所での開催だったが、観光地にある為、往来が激しく騒がしくなり、また、周辺環境が落ち着かなくなってしまったので、水曜日と同じく、楽田の「寺子屋シェイクハンズ」（犬山市字裏之門）に変更した。

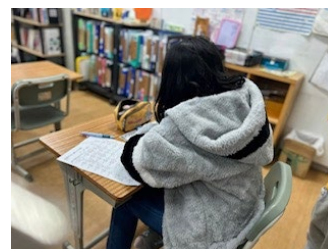
毎週水曜日 18時～21時 18時～19時 希望者には軽食や語らいの場、
19時～21時 学習タイム

毎週土曜日 10時～12:30

※土曜日には、学習が手につかない生徒に対して、興味ある事ができる部屋を用意し、軽食も用意した。

課題・目的：地域特性として、外国ルーツやひとり親家庭、困難を抱える子どもたちが多く、それらの子ども達に対して、居場所になり、希望が持てる学びにつなげられることを目標とした。特に前年度から通ってきている子で、重層的な困難を抱えている子が二人、高校受験を迎えるので、とにかく高校へ入学できるよう、全力を挙げて支援をした。

2. 実施した奨学活動の詳細



活動内容／毎週水曜日、18時～21時。主に学習の場

毎週土曜日 10時30分～12時。学習意欲わかない場合は、簡単な体験の場を用意【例えば楽器、習字、調理、農作業等】

参加者／中学3年生【5人】、中学2年生【3人】、中学1年生【5人】

高校生2年生【1人】、高校1年生【1人】 高校生年代16才【2人】、18才【1人】
（内、中退者2人、不登校1人）

周知方法／市内4校の中学校でのチラシ配布。

地域のコミュニティセンター等でのチラシ掲載

連携／犬山市教育委員会、犬山市福祉課、犬山市社会福祉協議会、犬山市青少年センター、犬山市民活動支援センター、名古屋経済大学、

学習支援員／ 6人、（教員OB2名、大学生2名、会社員2名）
他、地域の方（見守りボランティア2名）

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

成果としては、まず、高校受験生全員が希望校に合格出来たこと。（うち一人が、難関高校に合格）発達凸凹を抱えた子も、学校や家庭との度重なる面談の上、特別支援校高等部への入学が決まった。また、家庭に事情を持つ子が、定期的に場に参加できるようになり、生活が安定し、保護者（親ではないが）、とも日常的にコンタクトがとれるようになったこと。中退者のうち、一人はほぼ毎週居場所に参加でき、支援員とも家の事や将来のことなどを話すような関係性ができつつある。様々な社会資源がつながり、困難を抱える子を支えていける関係性が、昨年度より一層できつつある。学校へのアプローチも進み、関心を寄せてくださる先生も出てきた。引き続き、ロングスパンで、支援をしていきたい。

反省点としては、現役高校生が、毎週の定期的な参加には至らず、月に1～2回程度、ふらっと立ち寄る程度にとどまった点。全員にとって居心地がよく、安心できる場には、まだまだ遠いと感じる。具体的には、居場所としての役割と、学習支援の場としての矛盾がある点。また、集まってくる若者たちにもっと寄り添うには、若い世代の支援者がもっと必要では！と感じる。次年度は、近く大学ともっと連携を深めてゆきたいと、考えています。

また、かなり深刻な事情を抱えている若者も参加したため、SNSによる発信ができず、アピールが不足しました。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

昨年度からの経緯もあり、様々な問題を抱えた子の居場所的な場になった感があります。発に凸凹を抱えた外国ルーツの若者が、感情のコントロールができず、時々、大声をあげることがあり、当初はみな近寄らないでいたが、彼はほぼ毎回参加するので、次第に慣れていき、彼の感情を高ぶらせない対応をみなで考えてくれるようになった。周りのやさしさの中で、彼もまた大声を上げることが、少なくなりました。彼は、これまでいくつもの塾や支援の場が合わず、渡り歩いていたようですが、「今回は、楽しみに通うことができ、とて

もありがたい」と、母親から感謝の言葉をいただきました。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

若者の居場所と学習支援の場は、地域にとって必要との認識を持っていましたが、実際には、なかなか存在せず、地域に受け皿がないのが実情だが、この貴重な場が2年間続いていて、素晴らしいと感じる。今後もずっと継続して行ってほしいし、継続できるよう、本学の学生や留学生がもっと関わっていけるような、仕組づくりを念頭において、支援を続けていきたい。

名古屋経済大学 経営学部教授